

## キャリアモデルとしての中学生の姿

学校長 森 愛 子

ベネッセ総合研究所の「若者の仕事生活実態調査報告書」によりますと、「産業構造の変化により、『学校から職場への移行システム』が大きく変容した現在、将来を見越した仕事上での目標設定を子どもたち個人が行うこと、あるいはそれを学校教育のなかで支援することが容易でなくなっている。また家族規模の縮小、地域コミュニティの希薄化、職住分離が進む中で、子ども達が働く大人と出会う機会が減っている。今、子どもたちには、親、学校の教師、塾などの講師以外の大人との出会いはほとんどないと言ってよい。つまりキャリアの目標を設定しようにも、そのモデルがあまりにも少ない。」ということです。

報告書は、「例えば、お祭りや子ども会などの地域の行事に参加することで子どもは役割を与えられる。ここで、単なる出会いを超えた、共同体のなかでの役割遂行という真の学びが始まるのである。子どもは、共同体に先に参入したメンバー（先輩）を成長のための階段とみなす。それは、1年後、3年後、5年後、10年後の自らのキャリアモデルとなる。このように、子どもにとって、親・教師のような「タテの関係」や友人同士での「ヨコの関係」だけでなく少し先を歩く先輩たちとの「ナナメの関係」こそ、成長の足がかりとして欠かせないものだ。」と続きます。

7月1日に本校を会場として、西谷中学校の地区懇談会が開催されました。西谷中の先生方、本校職員、保護者・自治会の方々が、「子どもと共に学び、共に考え、共に成長するために」を共通テーマに、中学生も交えて活発な意見交換がなされました。グループごとの話し合いの結果を中学生がまとめて発表し、全体で共有するのですが、次々と交わされる意見を要約しメモに取り、全体場で堂々と発表する中学生の姿にまさに、市沢の子どもたちにとっての少し先を歩く先輩の姿、キャリアモデルを見いだしました。本校の卒業生であるわけですから、西谷中とともに本校の教育の成果であり、しっかりと家庭教育の賜であると思います。そして、前半に引用しましたように、市沢の地域において「共同体のなかでの真の学び」ができていることを示しています。

西谷中の生徒たちは、今回、地区懇談会に参加した子どもたちだけでなく、登下校の際、会うと必ず挨拶をしてくれます。学援隊の皆様へは、更に、嬉しそうな笑顔も見せます。おそらく、地域行事・おやじの会・ジュニアボランティアなど様々な学校以外での活動を通じて、多くの大人と出会い、様々な配慮の中でその子なりの役割を務めあげるという成功体験を積み重ね、自分に自信をつけるとともに、お手本にしたいキャリアモデルといえる姿に育ったのでしょう。この夏、市沢小の子どもたちも、多くの地域行事に参加し、素敵な出会い、貴重な経験を重ねてほしいと願います。地域の皆様、どうぞよろしく願いいたします。